

◇2013年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)〈抜粋〉◇

この調査は2013(平成25)年度に実施された中学校の修学旅行に関するものである。今回の調査では、国内修学旅行実施率は94.7%(前回調査93.2%)と、前回調査より若干上がり、旅行先や実施時期がほぼ例年のように戻ったと思われる。また、前回調査から震災の復興を目指し頑張っている東北地方へ目的地を変更した学校がでたり、ニューツーリズムの多様化が広がってきたりしてきた様子がうかがえた。

この調査は、全国の国立・公立・私立等の中学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	73	9,784	771	10,628
抽出校数	73	1,948	606	2,627
抽出率%	100.0	19.9	78.6	24.7
回答校数	19	734	155	908
抽出校数に対する回答率%	26.0	37.7	25.6	34.6
全国校数に対する回答率%	27.0	7.5	20.1	8.5

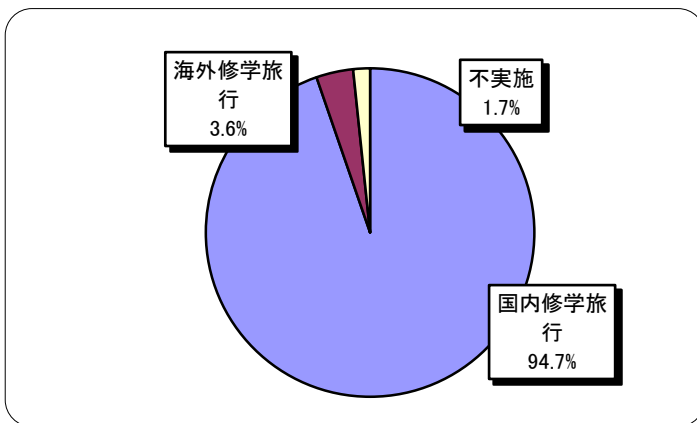
※ 私立の全国校数には組合立1校を含む。

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況 (2)不参加生徒の有無と理由 (3)実施時期 (4)実施学年 (5)保健指導のための引率
(6)旅行費用 (7)主な交通手段 (8)旅行内容「重点をおいた活動、旅行先、宿泊地・宿泊形態、見学先等」
(9)班別自主行動 (10)体験学習 (11)防災(避難)訓練の取り組み

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

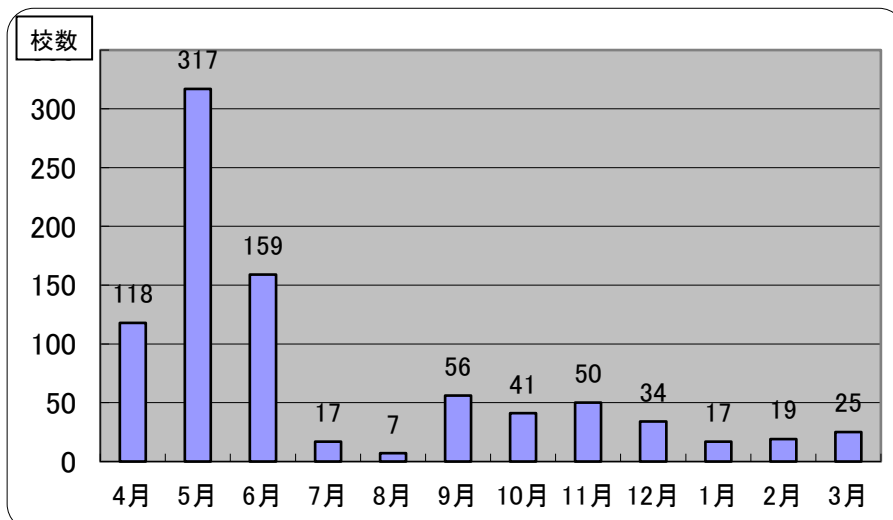
1 修学旅行の実施状況



回答のあった海外修学旅行も含めた実施率は98.3%で、前回98.4%より若干下がった。

また全体では、海外修学旅行の実施校の割合が前回調査より1.6ポイント下がった。今回調査では、全体に対して私立の割合が減ったことも要因となっている。

2 修学旅行実施時期

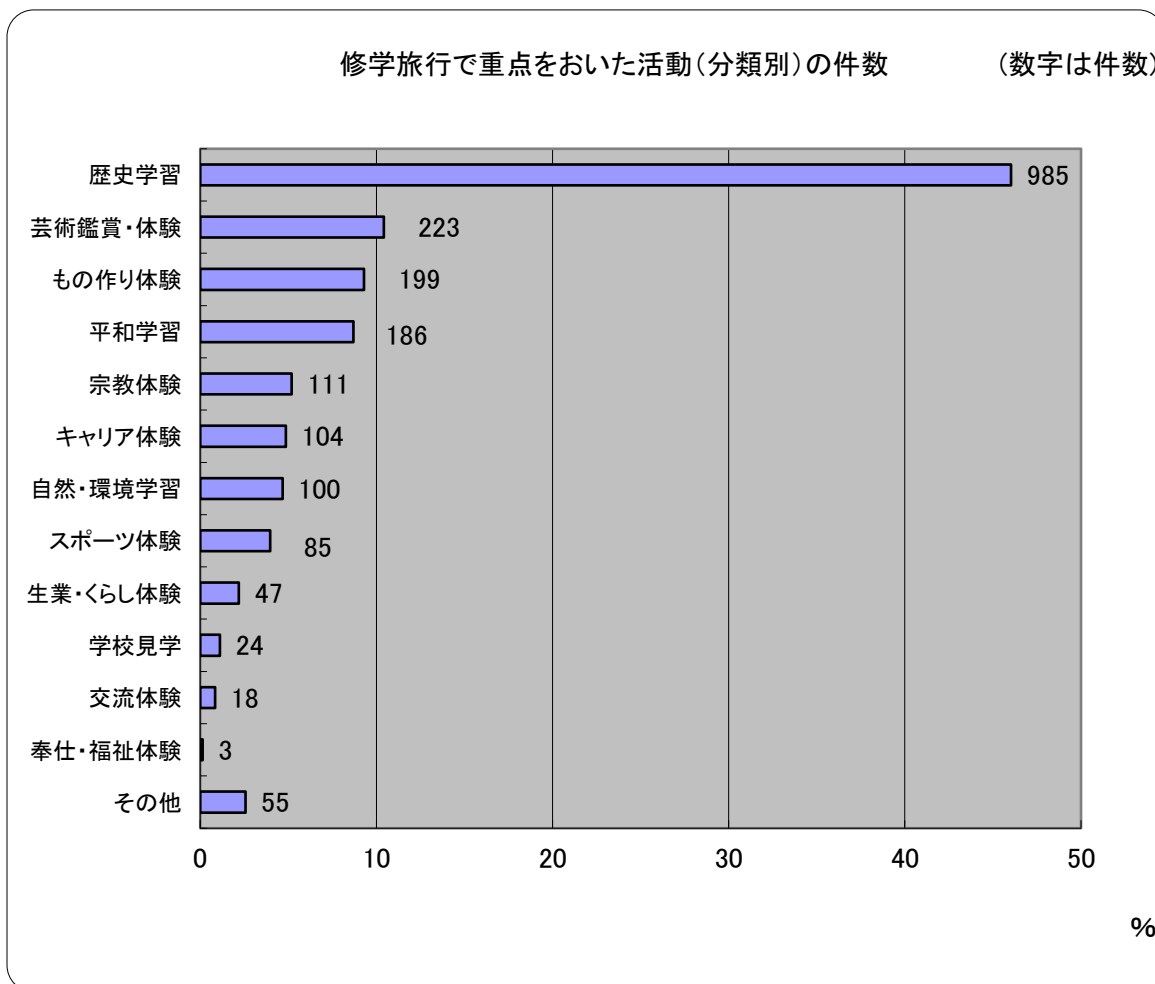


公立は、4・5・6月実施が76.2%(前回調査76.5%)で公立全体の3/4を占めている。

前々回調査では、震災と原発事故の影響により、実施時期が後ろに移行した学校も多く見られたが、前回調査からは例年並みに戻った。

また、3学期に実施している公立中学校は、すべて2年生で実施している。

3 分類別旅行内容



前々回調査より、修学旅行で重点をおいた活動や目的が何であったかを割合に表した「修学旅行で重点をおいた活動(分類別)の件数」としてグラフに示した。

そのなかで、史跡・町並み・産業遺産・博物館等の見学などの歴史学習に重点をおくものが46.0%(前回調査45.3%)、伝統工芸・料理・食品加工などのもの作りが9.3%(前回調査7.8%)、平和学習が8.7%(前回調査10.3%)、ミュージカル・演劇・歌舞伎・文楽・能楽等の鑑賞、伝統文化・伝統芸能や祭り体験、美術館等の見学、コンサート・音楽鑑賞などの芸術鑑賞・体験が10.4%(前回調査10.6%)、野外活動・環境学習などの自然・環境学習の分野が4.7%(前回調査5.6%)であった。

今回は、宗教体験(座禅、法話、写経等)が5.2%(前回調査4.7%)、職場訪問・職場体験、販売・商業体験などのキャリア体験が4.9%(前回調査4.4%)となり、自然・環境学習の分野と順位が入れ替わった。



長崎の人気プログラム「体験ペーロン」の雄姿
(写真提供=長崎国際コンベンション協会)



日本三大菓子処・金沢での和菓子作り体験
(写真提供=石川県観光振興課)

4 旅行先ベスト20

順位	旅行先	件数	構成比%
1 (1)	京 都	382	20.3
2 (2)	奈 良	329	17.5
3 (3)	東 京	220	11.7
4 (4)	千 葉	194	10.3
5 (5)	大 阪	118	6.3
6 (6)	沖 縄	70	3.7
7 (8)	長 崎	67	3.6
8 (8)	神奈川	66	3.5
9(11)	福 岡	59	3.1
10(10)	広 島	45	2.4
11(12)	北海道	44	2.3
12 (7)	兵 庫	42	2.2
13(14)	熊 本	31	1.6
14(20)	佐 賀	23	1.2
15(15)	山 梨	20	1.1
16(33)	青 森	18	1.0
16(25)	岩 手	18	1.0
18(33)	秋 田	17	0.9
19(16)	滋 賀	16	0.9
20(13)	長 野	13	0.7
その他		88	4.7
合 計		1,880	100.0

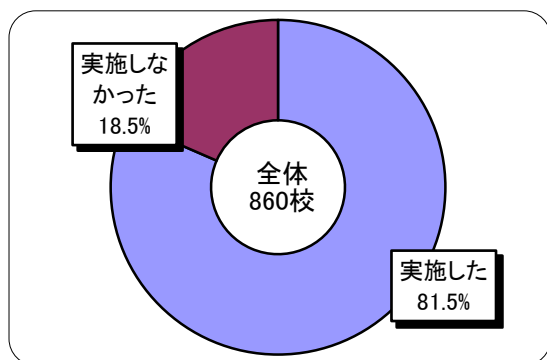
※ ()内は前回順位

前々回調査からカウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

その中で、今回調査で上位については大きな変動は見られない。大きな変動として、震災の影響が薄らいだことで、兵庫が前回7位から12位に下がったこと、佐賀が前回20位から14位に上がったことがあげられる。

一方、震災の復興に向け頑張っている東北地方の青森県16位、岩手県16位、秋田県18位と3県が20位以内に入ったことは、称賛に値する。

5 班別自主行動実施率

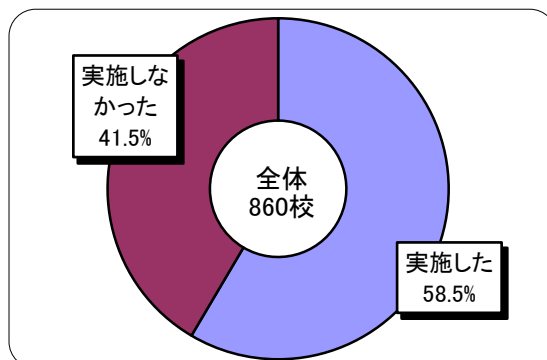


今回も80%を超え、全体で81.5%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2007(平成19)年度が85.2%、2008(平成20)年度が87.3%、2009(平成21)年度が76.4%、2011(平成23)年度が82.8%、前回2012(平成24)年度が80.3%であった。

今後、体験学習との関連も含めて、各学校で生徒の実態と目標を的確にとらえて、どのような形態で具体的に何を学習させるべきかを考えていく必要があるだろう。

6 体験学習実施率



体験学習実施率は、全体で58.5%と前回調査(2012年度実施、59.6%)より1.1ポイント減ったものの、ほぼ昨年と状況が同じであり、体験活動は修学旅行における目標達成のための重要な活動ととらえられる。